

FORUM REVIEW AF105

テーマ：国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の登場で、求められる日本企業の新たな国際化戦略と真の競争力の強化

講師：藤井 良広氏 一般社団法人環境金融研究機構 代表理事

日程：2022年5月24日



1972年大阪市立大学経済学部卒業、日本経済新聞社入社、2006年上智大学地球環境学研究所教授、2014年一般社団法人環境金融研究機構代表理事、2015年上智大学教授退官、同大客員教授就任、2020年同大客員教授退官、現在に至る。英 Climate Bonds Initiative Adviser（2014年～現在に至る）等。

2022年3月31日に国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の公開草案が公表された。ISSBは、十分な情報に基づく投資家等の意思決定を支援するため、企業のサステナビリティに関連するリスク及び機会に関する情報を提供する、開示基準の包括的なグローバル・ベースラインの提供を目的に設立された。ここで言う「サステナビリティ」とはなにか。国際財務報告基準（IFRS）の評価対象外となっていた定量化の難しい環境・社会的な課題などの「非財務」部分であり、これが企業価値の評価に大きく関わってくる。今回開示された草案は英文で900ページに及ぶ膨大なもので、サステナビリティ関係の全般的な要求事項（S1 基準案）、気候関連のテーマ別要求事項（S2 基準案本文）、産業による影響度の違いを示す産業別要求事項（S2 基準案付録B）で構成されている。企業価値に影響するコア・コンテンツとして、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標及び目標の観点から開示する。

ISSBは7月までコメントを募集して年内にも最終基準を公表する見込みである。これに対して各国がどのように調整しておくのか、ISSBは法律ではなく各国でこの上に載せるものが法律になる。すなわち Building Block Approach が重要となってくる。日本での政策の対応、会計の仕組みの対応、さらにそれらを踏まえて日本企業等がどのように展開していけるか。そこには新しいビジネスチャンスも出てくると思われる。

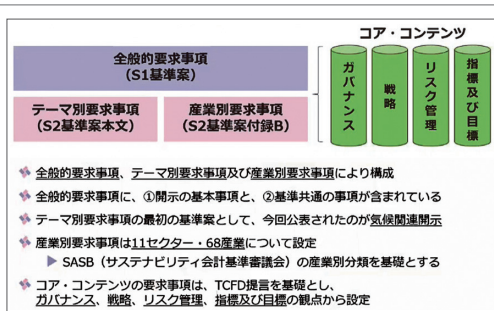


図3 公表されたISSB公開草案の概要（ASBJ資料より）

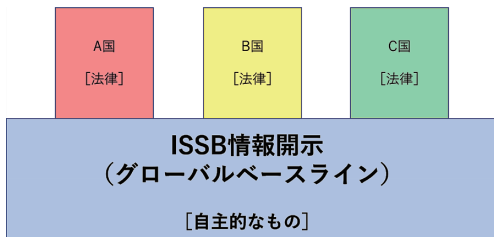


図4 各国間調整と「Building Block Approach」